

## 第1回広域連携ワーキンググループ議事概要

1 日 時 令和5年9月27日(水) 14:00~16:00

2 場 所 檜葉コミュニティセンター 大会議室

3 出席者 出席者名簿のとおり

### 4 議 事

- (1) 広域連携ワーキンググループ運営要領について
- (2) 令和5年度研究公募の状況について（報告）
- (3) F-REI 関係予算の令和6年度概算要求について（報告）
- (4) F-REI の施設整備について（報告）
- (5) 広域連携に関する取組について
- (6) 意見交換

#### 【主な発言内容】

(いわき市)

- 本市では、引き続き F-REI、福島県、地域の自治体等と連携して福島浜通り地域の復興に貢献していく考え。
- また、本市においては高等教育機関や産業支援機関の取組みを加速するため令和5年4月から、F-REI 連携企画官2名（学術担当及び産業担当）を設置した。
- F-REI との連携のため、市内企業の意向について訪問等を重ねながら確認しているところ。
- 企業等が直接 F-REI にアクセスできるような窓口があれば、より一層連携の取組みが進むものと期待している。

(田村市)

- F-REI の研究公募（エネルギー分野）について、当市に実証フィールドに関する相談が1件あり、調整しているところ。
- 企業、学校、行政が F-REI との連携に当たりどのような役割を果たすのか、どう連携できるのかについて情報が伝わっていないこと、F-REI の研究や実証にいかに関与の企業等を巻き込み、つながりを作っていくのかが分からないことが課題。

(南相馬市)

- 当市では、市町村座談会、市内高校でのトップセミナー、基本合意書（MOU）の締結のほか、F-REI との連携の取組として、市主催による F-REI 理事長を講師に迎えた講演会等を実施している。
- F-REI の研究公募（農林水産業分野）開始後、複数の団体から実証フィールドに関する相談があり、市内の農業生産法人を紹介した。
- F-REI を核としたパートナーシップによる広域連携を進めていくためには、F-REI が市町村に何を望み、何を期待しているのか等、連携の具体的な内容を明らかにしたうえで議論を進めていくことが重要。
- F-REI の認知度はまだまだ低い状況であり、当市としても F-REI の協力を得ながら地域住民や関係団体に対する勉強会等、F-REI の認知度向上につながる取組を継続的に実施していきたい。

(広野町)

- 当町は、東京大学アイソトープ総合センターと協定を結んでおり、従前から、放射線創薬研究に対する支援を行ってきた。今後も引き続きこの分野に関わり、実証フィールドにつながるような取組を行っていきたい。
- 当町としては、F-REI の研究分野全てを色々な地域で万遍なくやるのではなく、その地域が持っているポテンシャルの中で一つの役割を担っていききたいという思いがある。研究公募については、単年度ではなく、継続性があるものとして募集されることを期待。
- 地域として、人材育成を念頭に県立ふたば未来学園の子供たち、学生たちにはワクワクするような夢を描いてほしいと願っている。そうした夢の旗印となることを F-REI に期待。

(檜葉町)

- F-REI を中心に地域に根差した取組が推進され、広域的な連携に発展することを期待。
- 町内に F-REI の取組に参画を希望する企業がある。F-REI の研究開発を産業化に繋げられるよう産学官が連携した体制の構築が必要。

(大熊町)

- 企業や大学等から F-REI と連携したいという話があれば、当町としても支援していきたい。
- 町内のインキュベーションセンターに入居するスタートアップ企業等から F-REI との関わり方がわからないという声もある。F-REI 事業のどれが活用できるのかメニ

ユー表があるとよい。

- 町民の F-REI への興味関心も高いため、町が住民に分かりやすく伝えられるよう、継続的な情報発信をお願いしたい。

(双葉町)

- 当町は避難指示が解除されて1年とまだ復興のスタート段階であり、住民や企業等のプレイヤーが十分に戻り切っていない中で、F-REI 関係の案件はハードルが高いと感じている。
- F-REI との連携について、復興が比較的進んでいる自治体に偏ってしまうことを懸念。F-REI には、地域全体に裨益するよう目配りしていただきたい。

(浪江町)

- 当町では、F-REI の整備・活動を支援するため、市街地整備課の中に F-REI 立地室を設置し、職員 8 名を配置した。
- F-REI の将来的な活動の円滑化には、生活環境が重要となることから、F-REI 周辺のまちづくりに関する基本構想について、今年中にパブコメ行い、来年 3 月までにまとめる予定。
- 連携を進めて行くに当たり、F-REI から現状と将来の需要を把握したい。また、近隣自治体とも協力して課題に取り組んでまいりたい。
- F-REI 職員に当町を知っていただくための町内ツアーも開催可能である。

(葛尾村)

- 当村では、4 月に復興推進室内に F-REI に関する窓口を設置した。
- 東京都内の大学から F-REI の研究公募（農林水産業分野）における実証フィールドに関する相談があり、村としてどのように協力できるか検討中。
- 村内の事業者から F-REI との連携について具体的な相談はないが、連携に意欲的な事業者は存在しており、相談があった場合は、速やかに F-REI につないでいきたい。
- 村内事業者が F-REI とどのように関わることができるのか、連携の可能性について具体例を示しながら相談できる仕掛け等の工夫が必要。具体例があれば、村としても広報誌等を活用して周知したい。
- 人材育成について、大学生、高校生を対象としたトップセミナーだけでなく、できるだけ小さい時から科学に触れられるような取組が重要。

(福島県)

- 県として、広域連携に向けた 3 つの取組を進めている。1 点目は、(公財)福島イノベーション・コースト推進機構が市町村と F-REI とをつなぐハブとなるよう、コー

ディネーター2名を設置した。

- 2点目の情報発信については、県広報紙やテレビ番組、9月に開催されたロボテスフェスタへのF-REIブースの出展等、様々な媒体を通じてF-REIを紹介している。
- 3点目の理解醸成について、県職員のF-REIについての理解を深めるため、県職員向け説明会を開催した。
- お互いの理解を深めた上で、広域連携WGの枠組み等を活用ながら、さらなる連携強化に向けて取組を進めていきたい。
- F-REI関係業務のことで悩むことがあれば、気軽に県庁福島イノベーション・コースト構想推進課に連絡いただきたい。

((公財)福島イノベーション・コースト推進機構)

- 当機構では、4月に市町村とF-REIをつなぐ専任のコーディネーターを設置した。F-REIの窓口が分かりにくい場合は、コーディネーターまでお問い合わせいただきたい。
- F-REIの研究活動にしっかりと地域の企業が参画できるよう、当機構としても関連自治体の訪問等の取組を行っている。
- 当機構では、人材育成事業として小・中・高・大までの未来を担う子どもたちの育成も行っており、F-REIの先端的な研究者の育成の取組と相乗効果が表れるよう、連携して取り組んでいきたい。
- 浜通り地域等を実証フィールドする様々な実証活動のお手伝いをさせていただきたい。ロボテスでは、フィールド外でロボット関連以外の分野でも実証の手伝いが可能。